

6 県南連携都市圏の将来像と都市づくりの方針

(1) 目指す将来像

美しい豊穡の海、いきいきとした連携、ふれあいの海岸都市圏づくり

- ・海の自然と歴史の魅力をいかした都市づくりを目指します。
- ・高速道路を軸とした連携都市圏を構築し、安心して生活できる都市圏を目指します。

(2) 都市づくりの基本的な考え方

① 圏域構造の考え方

圏域構造の概要

- ・日豊海岸沿いに位置する国道 217 号と市街地背後に整備される東九州自動車道を都市間交流軸とします。
- ・それぞれの都市の海岸や港湾をネットワークし、さらに、山の自然や歴史資源の積極的な保全と活用を図っていくことにより、観光・レクリエーションの面からもより一体的で魅力ある圏域の形成を図ります。

各都市の役割

- ・佐伯市は、まとまりのある市街地に多様な都市機能を集積させるとともに、海に関わる自然・観光資源を活用し、魅力ある生活・観光・交流の拠点としての役割を果たします。
- ・臼杵市、津久見市は、産業や地域固有の資源などを十分に活用しつつ、より高度な都市機能の分担及び自然と融合したゆとりある居住空間の整備による便利で快適な生活都市の形成を目指します。

② 土地利用の考え方

- ・市街地背後の山々が海に迫る地形特性をいかし、まとまりのある市街地形成を進めるとともに、効率的・合理的な土地利用を誘導し必要な都市機能の充実を図ります。東九州自動車道のインターチェンジ周辺など、無秩序な開発が進む可能性のある地区では、適切な土地利用への誘導を図ります。
- ・多数の岬と湾が複雑に入組む美しい海岸線と臼杵石仏などの歴史資源の効率的・効果的な利活用と保全に資する土地利用を進めます。
- ・沿岸部の津波被害が懸念される市街地など、災害リスクの高い区域においては、居住や都市施設などの都市機能の立地の抑制を基本に、施設立地にあたっては災害対策の充実を図るなど、適切な土地利用の転換を図ります。

③ 都市施設の考え方

- ・都市間の交流を支える基盤として国道 217 号と東九州自動車道、東九州自動車道へのアクセス道路の整備を促進します。また、圏域外、県外との交流を促進する国道 502 号、国

道 388 号において、必要な整備を推進します。

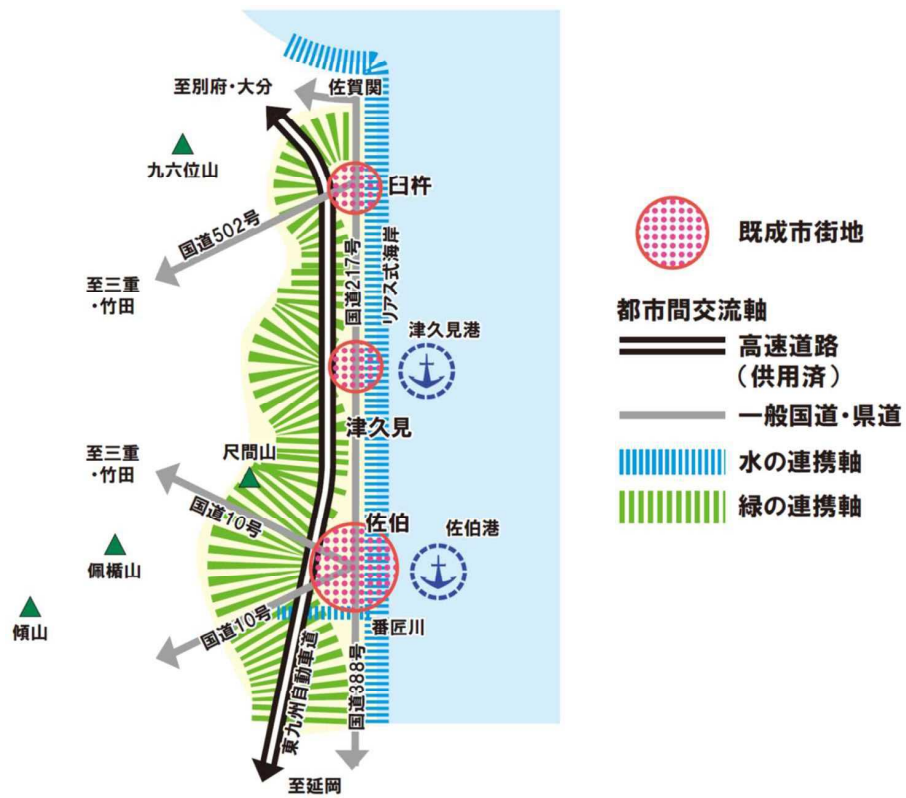
- ・南海トラフ巨大地震など、近い将来に発生することが予測されている大規模災害を踏まえ、道路の防災対策に努めます。
- ・路線バス及びデマンド交通などを確保・維持し、誰もが各拠点間にアクセスできる公共交通ネットワークを構築するとともに、情報通信技術を活用した交通需要マネジメント、自動運転や次世代型の自動車のシェアリングシステムなど、新たな交通システムの導入について関係機関と連携して検討を進めます。
- ・既存の海浜レジャー施設や歴史資源をいかした拠点づくりや都市公園の整備を進め、特に海岸線や河川と一体的な水と緑のネットワークづくりを目指します。

④ 自然環境保全の考え方

- ・海岸線や番匠川などの河川や傾山、尺間山などの山地及び平地部の優良な田園について、広域的な保全を図ります。
- ・リアス式海岸など美しい自然景観を保全・形成するとともに、市街地における公園整備や市街地内農地の保全、グリーンインフラの取組を推進します。

⑤ 都市防災の考え方

- ・本都市圏は、海岸沿いに市街地が位置しており、南海トラフ巨大地震をはじめとした津波による被害が懸念されます。また市街地後背部が急峻な地形になっており、集中豪雨等による低地の浸水、氾濫や土砂災害が懸念されます。
- ・このような区域では、土砂災害や河川浸水、津波浸水などが想定される区域等の防災情報を横断的に整理したうえで、ハード・ソフトの施策を柔軟に組み合わせて、多重防御による安全性の確保に努め、強靱な県土づくりを持続的に推進します。



■ 県南連携都市圏の圏域構造図